

第4学年 社会科学習指導案

奈良市立飛鳥小学校 池見 幸恵

1. 単元名 『きょう土の発てんにつくした人 ～川路聖謨～』

2. 単元の目標

- ・ 川路聖謨が奈良の人々の幸せを願って強い信念をもち、よりよい奈良のために奉行としての情熱を傾け現在の奈良の姿につながっていることを理解するとともに、「植桜楓之碑」に記された川路聖謨の思いについて考えるために、インターネット等の資料を効果的に活用したり、聞き取りなどをしたりすることから必要な情報を集め読み取る。 【知識・技能】
- ・ 川路聖謨が行った奈良での業績などからそこに込められた願いや思いについて考え、100年後のよりよい奈良をつくるために今の自分ができることなどを言語などで適切に表現する。 【思考・判断・表現】
- ・ 川路聖謨とその業績に関心をもち、自分の課題に対して意欲的に追究するとともに、100年後のよりよい奈良の姿を積極的に考え、今の自分にできることを実践しようとする態度をもつ。 【主体的に学習に取り組む態度】

3. 単元について

○教材について

本単元は、学習指導要領解説によると、内容（5）「地域の人々の生活について、次のことを見学、調査したり年表にまとめたりして調べ、人々の生活の変化や人々の願い、地域の人々の生活の向上に尽くした先人の働きや苦心を考えるようにする。」のウ「地域の発展に尽くした先人の具体的事例」にあたる。川路聖謨は、奈良奉行を務める中で、興福寺境内を中心に、市内に桜や楓の苗木数千株を植え、奈良公園の礎を築いた人物である。猿沢池五十二段横に建つ「植桜楓之碑」には、「100年前に植えられた木が枯れてきたので、今植えたことで今後100年間楽しめる。100年後もまた植えてほしい。」という川路の言葉が記されている。この言葉から、今がよければそれでよいと考えるのではなく、持続可能な奈良の姿を考えることが重要で、そのために自分が行動をしていくことが大切であることを実感できる。このような社会的な見方・考え方を学ぶことにより、児童自身も将来のことを考えて行動していくことが大切であると感じられる教材である。

○指導について

まず、「みつめる」段階では、大まかに川路聖謨の業績を知った上で、植桜楓之碑を見ることにより、自分たちの校区の魅力の一つである奈良公園の桜を植えた人物がいることに興味・関心をもたせる。そして、「川路聖謨は、なぜ木を植えたのだろうか？」という学習問題をつくる。

次に、「しらべる」段階では、川路聖謨はどのような人物だったのか、奈良奉行として進めた様々な政治改革などについて図書で調べる。調べたことは、後に友だちに伝えることを踏まえてまとめる。そして、それを友だちと伝え合い、川路がどのような人物だったのか理解を深める。調べてみると、川路が奈良奉行として行った様々な政治改革は、差別されてきた人々や貧しい人々を救済し、奈良の人たちのことを心底考えてのことであったことが明らかになるだろう。しかし、それらの改革はその時代に生きていた人の直接的な幸せにつながるが、木を植えるという行為はそうではない。

そこで、「ふかめる」段階では、これまでに調べたことをもとにして、学習問題「川路聖謨は、

なぜ木を植えたのだろうか？」について、ねり合う場面を設ける【④コミュニケーションを行う力】。また、調べたことだけではなく、「佐保川を美しくする会」の方の話を聞いたり、お家の人に佐保川の桜についてインタビューしたりすることにより、川路の願いの中にはいつも「人々の幸せ」「人の笑顔」があったのではないかという共通項を見出し【③多面的・総合的に考える力】、その思いが現在にも引き継がれ、170年経った今も人々の楽しみになっていることに気付かせたい【⑥つながりを尊重する態度】。

最後に「ひろげる」段階では、将来の奈良のために、今の自分にできることは何かを考える【②未来像を予測して計画を立てる力】。今の奈良の課題を考え、自分が実際にできる活動を考えられるよう指導する。

○ESDの観点について

「100年前に植えられた木が枯れてきたので、今植えたことで今後100年間楽しめる。100年後もまた植えてほしい。」という川路の言葉そのものが、持続可能な社会についての考え方そのものである。このような考え方が「佐保川を美しくする会」の方などの、現在も木の世話をしている人に引き継がれている。このような人たちの思いや、実際に今桜を見ている自分たちの思いを考えることにより、今後引き継ぐのは自分たちだという思いをもたせることができると考える。

【持続可能な社会づくりの構成概念】

- II 相互性・・・川路聖謨のやったことは、すべて奈良の人々の幸せのためを考えてのことである
- III 有限性・・・木には寿命がある
- V 公平性・・・植えられた木は、どの時代も奈良の人々を楽しませている
- VI 責任性・・・100年後の人々のために、今できることは何だろうか

4. 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①川路聖謨の奈良での業績について資料や聞き取りなどからの確に調べている。 ②川路聖謨がよりよい奈良を願って奉行としての仕事を続けたことを理解している。 ③川路聖謨の願いが現在の奈良の姿につながっていることに気付いている。	①川路聖謨の願いや思いについて調べたことをもとに考え、適切に判断し表現している。 ②現在の奈良の課題を見つめ、今後の自分の生き方を具体的に考えている。	①川路聖謨の願いや思いに迫るために、意欲的に調べたり考えたりしようとしている。 ②100年後のよりよい奈良のために、今の自分ができていることを積極的に考え、実践しようとしている。

※単元の構想（全 12 時間）

みつめる②



← こんな石碑があるんだけど・・・

「植桜楓之碑」
 今から 100 年前に植えられた桜や楓が枯れて少なくなってきました。そこで、東大寺や興福寺の中を中心に、南は白毫寺あたりから、北は佐保川の堤まで、桜や楓の苗木を数千株植えました。これで 100 年間はみんなも楽しめるでしょう。そのあとの人たちが次の 100 年のためにまた植えてくれることをのぞみます。



そのときに植えられた 170 年桜『川路桜』

川路桜
170 年の長寿大桜 古木を守ろう!
 この桜の巨木は、今から百七十年ほど前に植えられたと思われ、江戸末期、当時 奈良奉行として赴任してきた川路聖謨が「奈良公園、佐保川、平城宮跡に数千本の桜の植樹をした」と記述されており、白根や水質の悪化を乗り越えて、今なおその歴史を語り、美しい花を咲かせています。人々の心をやわらげ、明るい平和な社会に一段を担ってくれていると思います。
 この桜をいつまでも保ち、皆んなで川をきれいに大桜を守ってまいりましょう。
奈良公園歴史館蔵
 聖謨の日記より

なぜ、川路聖謨は木を植えようとしたのだろう？

しらべる⑥

川路聖謨について調べよう

川路聖謨（1801～1868）江戸末期の幕臣
 1846 年 奈良奉行に左遷される。
 以後、約 6 年間にわたり奈良奉行を務める中で、賭博や少年犯罪を厳しく取り締まり、犯罪者への拷問を禁止したり、被差別民衆の地場産業の振興や貧民救済の基金を設立したりと、たえず民衆の立場に立った政治を行い、奉行退任の折には奈良の民衆が何千人も江戸へと見送ったという記録が残っている。

奈良の人たちのことをすごく思っていた人だなあ。

みんなの幸せを何よりも願って仕事をしていたんじゃないかなあ。

奈良の人の幸せが何なのか、いつも考えていたんじゃないのかな。

「佐保川を美しくする会」の方に話を聞こう

ふかめる②



その後、補植されて 5 km にわたって続く佐保川の桜

100 年後にもちゃんと桜がある！ その後の人たちがまた桜を植えたんだ！ 川路聖謨の思いがたがっている！

おうちの人に佐保川の桜について聞いてみ

毎年桜が咲くと必ず見に行くほど楽しみにして

たくさんの人が春になると桜を見て楽しんでい

学習問題の答えは？

奈良がずっと「すてきな奈良」でいられるように考えて、木を植えたと思う。

たくさんの人が笑顔になることを考えて、100 年前の人の考えに学んだからだ

ひろげる②

100 年後の奈良のために、今自分はどんなことができるだろう？

- ・今の豊かなくらしを守っていくために・・・
 - ・今の困っていることをなくすために・・・
 - ・もっとすてきな奈良にしていくために・・・
 - ・
 - ・
- 実現できることをやっつけていこう。
 自分たちの子どもや孫のために。

100 年後の奈良のことを思って、何かをやってすごいことだなあ。

100 年後の奈良のことも考えて、今の自分を考えなきゃ。

5. 単元展開の概要（全12時間）

	主な学習活動	●学習への支援 ・「資料」	評価[方法]
みつめる②	<p>○現地へ行き、碑の実物を見ながら川路聖謨という人物について知る。</p> <p>○碑文からどんなことが分かるかを考える。</p> <p>○川路聖謨がどんな人だったのか調べたいことがらを考え、学習問題をつくる。</p>	<p>●「植桜楓之碑」</p> <p>●碑文は漢文のため、抜粋した部分で読み下したものを提示する。</p> <p>●このことが奈良公園のできたもとであることを伝える。</p> <p>●「奉行」の役割について簡単に説明する。</p>	<p>ア① ウ① [ワークシート]</p>
<p>川路聖謨は、なぜ木を植えたのだろうか？</p>			
しらべる⑦	<p>○川路聖謨について調べる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川路聖謨の生涯を調べ、年表にまとめる ・奈良奉行だった川路聖謨の業績を調べる <p>○グループでまとめる。</p> <p>○いろいろな友だちと互いに分かったことを伝え合う。</p> <p>○聞き合って思ったことを話し合う。</p> <p>○「佐保川を美しくする会」の方の話を聞く。</p> <p>○今の佐保川の桜について家族などから聞いたことを交流する。</p>	<p>●図書資料を事前に数点準備しておき、資料を読みとれるよう読み仮名を記しておく。</p> <p>●プリントにまとめたり、模造紙などに書いたり、方法は各自で考える。</p> <p>●資料を見せながら調べて分かったことを伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「佐保川堤の写真」 ・「川路桜の写真」 <p>●補植されて今も人々の目を楽しませていることを提示する。</p>	<p>ア① ア② ア③ ウ① [作成資料] [ワークシート] [振り返り]</p>
ふかめる①	<p>○学習問題について話し合い、答えを自分で決める。</p>		<p>イ① [発言] [ワークシート]</p>
ひろげる②	<p>○100年後の奈良のために、今の自分にできることを考える。</p> <p>○実現可能なことを選び、具体的な活動に向けての方策を考える。</p>	<p>●小グループで思い付くだけ課題を出し合い、全体で解決方法を話し合えるようにする。</p> <p>●実現可能なことにしぼり、自分の子どもや孫の世代につながることを考えられるようにする。</p>	<p>イ② ウ② [ワークシート]</p>